

大谷小学校6年 飯田 栄都



8月6日、広島平和記念式典に参列しました。その中の広島県知事の挨拶の中で、「誰だか分からないほど顔が火ぶくれしたり、目玉や腸が飛び出したままさまよったりした被爆者の痛みを、私たちは本当に自分の痛みとして想像できているだろうか」と述べていました。ぼくは戦争や原爆の恐ろしさを学び、二度と繰り返してはならない事だと強く思いました。他の人の痛みも自分の痛みとしてとらえ、みんなが笑顔で過ごせる世界を作れるよう、まずは自分に何が出来るかを考えて行動していきたいです。平和な未来を作るのはぼくたちです。

大谷小学校6年 岡崎 元希



僕は今回広島に行き、教科書などで見たことのある原爆ドームなどを初めて見学しました。爆心地から160メートルもの近さで、原爆のさく裂を受けたこのドームを実際に目のあたりにし、原爆の恐ろしさを肌で感じました。平和記念資料館では、熱線で全身真っ赤にやけどをした人の絵を見て、79年前にこんなひどい出来事があったのが信じられませんでした。被爆体験記朗読会のあと、元安川の側で一緒に行った友達と「原爆の詩」を声に出して読みました。「原爆が落ちると、人はお化けになる」のです。戦争は絶対に絶対にしてはいけなくと強く思いました。

安中小学校6年 糸賀 慧



僕は、安中小学校代表として広島平和記念式典派遣事業に参加しました。79年前、広島に落とされた1つの原子爆弾によって、約14万人というとてもたくさんの方が亡くなりました。被爆者の梶本さんから、「家や学校がこわされて、生き残った人達も被爆の後遺症や食料不足に苦しんでずっと辛い思いをしていた」と聞きました。平和記念資料館へ行き、戦争や原爆の恐ろしさを見て、戦争を二度と起こしてはいけなく、と強く思いました。戦争はただの過去の歴史ではなく、これからも語りついでいかななくてはならないと思いました。



ひろしま子ども平和の集い参加



千羽鶴奉納

大谷小学校保護者 飯田 久美



79年前、原爆によって一瞬にして街は破壊され、多くの方が何が起こったのかも分からないまま命を奪われ、生き延びた人も次々と原爆症を引き起こし、今でも発病の不安や子孫への影響を危惧し、悩み苦しみ続けている人々がいるという現実核の恐ろしさを痛感しました。心身ともに大きな傷を負いながらも、命のバトンを繋いで日本の復興の為に尽力くださった方々に感謝するとともに、二度とこのような惨禍が繰り返されぬよう、私たちは戦争の凄惨さを後世に伝えていかなければなりません。核兵器の廃絶と世界平和を切に願います。

大谷小学校保護者 岡崎 憲治



79年前、あれだけの惨劇があったにも関わらず、今なお核保有国9か国、1万2,500発以上の核弾頭がある事に驚きと無念さを感じずにはいられません。ひろしま子ども平和の集いで被爆者の梶本淑子さんが「忘れられた歴史は繰り返す」と仰っていました。過去に犠牲になった方々の尊い命を無駄にしない為にも、私達一人一人が胸に刻み続けなければなりません。また、梶本さんは未来の広島について、「少々貧しくても私は平和がいいですね」と語られていました。今の私達は恵まれすぎています。この平和が永遠に続く事を願わずにいられません。

安中小学校保護者 糸賀 容子



広島原爆について考えるたびに、心に深い悲しみを覚えます。一瞬にして多くの方の命を奪い、今もなお、被爆者の方々を苦しめ続けています。戦争の悲惨さは想像を絶するもので、犠牲者の方の痛みと苦しみを思うと言葉にできません。今回の派遣事業で学んだ事は、戦争の恐ろしさだけではなく、平和の尊さです。子供達が成長しやがて社会を担う大人になった時、平和の大切さを胸に刻み、戦争を起こさない未来を築いてくれることを望んでいます。親子共に貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。



式典参列



爆心地にて

# 核兵器なき世界の実現に向けて 語り継ごう 平和の尊さを

～広島平和記念式典に参列～

広島・長崎に原爆が投下されて79年。

広島平和記念公園には様々な年齢・国籍の方々が訪れ、平和への祈りを捧げました。



被爆者の方たちの高齢化により、戦争体験者の生の声を聴く機会は、今後ますます少なくなっていくことでしょう。これからは戦争を知らない世代が学び、考え、次の世代に語り継いでいかなければなりません。村では、昭和63年に「非核平和美浦村宣言」を行い、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代へ語り継ぐための活動を続けています。今年もその一環として、小学生親子3組と非核平和美浦村宣言推進協議会代表、村議会議員代表などの計10名が、小中学校の児童生徒たちが平和への願いを込めて折った千羽鶴を奉納するとともに、広島市の原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(平和記念式典)に参列しました。ここでは、参加者が広島派遣を通して感じた、平和への思いを語って頂きました。

《敬称略》



原爆の子の像前にて



原爆ドーム前にて

美浦村議会議員 諸岡 正明



これまで映像でしか目にしなかった原爆ドームと初めて対面、原爆が全てを焼き尽くす瞬間に立ち合ったような錯覚に陥り、体が震えた。平和記念資料館では壁全体に廃墟と化したヒロシマの跡地、添文に一瞬にして町は破壊され、多くの人々が何が起こったか分からず命を奪われた。生き残った人々も変わり果てた姿で炎の中を逃げまどうと、この世の中で初めて遭遇する核の残酷さ、核の恐ろしさを改めて痛感し、二度と同じ過ちを繰り返してはならぬと深く肝に銘ずる。次の世代、子どもたちにどんな世界を引き継ぐか、考える時期と思う。

美浦村PTA連絡協議会会長 菅原 翔



広島平和記念式典に参加し、心に深く残る体験をしました。生存者の証言や、平和への願いが込められたメッセージに触れ、戦争の恐ろしさを改めて実感しました。特に、未来を担う子どもたちへの思いが強く伝わり、平和の維持が私たちの責任であることを痛感しました。式典を通じて、平和の尊さを再認識し、次世代にその思いを伝えていく決意を新たにしました。私たち一人ひとりが平和のために何ができるかを考え、行動することが求められていると感じました。広島でのこの経験を忘れず、平和の実現に向けて努力していきたいとします。